



本年度中教育事業としては

- 一、**研究会** 共同主催五回、各支部を通じて延回数一五三回、本部より派遣せる重なる講師、木村盛、重原虎雄、齊藤健一、阿部温知、山崎廣、原彪、石川準十郎の諸氏及本部役員、課題は時事問題特に組合の闘争題目、並に批判等が主であつた。
- 二、**辯論會** は支部主催六一回で下谷支部の十四回が最高である、他支部は平均一、二回である、研究会、辯論會、等を兼ねて開催された茶話會は各支部を通じて、二五六回の多きに達して居る。
- 三、**出版** は選信労働新聞を本會准機關紙として階級的教育並に宣傳紹介の効果を擧げた、關係出版物としては機關紙「労働」、日本民衆新聞、社會民衆新聞、「労働經濟」等々に依り政治、經濟方面の教育資料として居る。支部に於て定期刊行機關紙を持つもの七支部不定期十支部、ピラ型ニュース定期發行四支部、臨時發行三十二支部此の總延回数五四三回で品川支部の三十八回(定期發行)が最高である。
- 四、**圖書の紹介、取次** 總同盟出版部、社會民衆黨出版部等の外關係出版物の紹介取次をなせり、重なるものは、赤松會長著「社會民主主義の旗の下に」鈴木文治氏著「労働運動二十年」安部磯雄氏著「一次の時代」同「國民の聲」に訴ふ」松岡駒吉氏著「労働組合論」等々である。支部に於て圖書の備付あるもの十七支部、支部に於て共同購入をなせる支部十六支部の好成績である。

法律部報告

昨年度に於て新設された本部門の充實の爲めに關係法規類の蒐集、研究等をなすと同時に選信労働新聞の紙面餘白ある場合を利用して、關係法規、規程の紹介をなす外、組合員の法的權利維護の爲めに盡した。

顧問藤田士片山君、松永義雄、阿部温知、住吉吉彦、西川秀能氏等の努力に感謝の意を表する次第である。殊に貯金局問題四月卅日の動員に際しては體格特別整備の爲めに盡力下された事は全組合員と共に厚く感謝するものである。

事業部報告

事業部は各支部相互間の既設事業部の連絡指導、事業部開設奨励をなし來つたが、充分に其の目的を達成し得なかつた。これは一面今年度中の多端なる諸問題に没頭せざるを得なつた事に基因するのであるが初期の目的達成の爲めに益々絶へざる努力を切望する。

- 一、**購買事業を行ふ支部** 〇巢鴨支部、〇下谷支部、〇赤坂支部、〇澁橋支部、〇寺島支部、〇品川支部、〇淺草支部、〇名古屋中央支部、〇麹町支部、〇貯金局支部、〇東工浪花茅場支部、〇世田谷支部、〇東工下谷淺草支部、〇大森支部、〇中野支部、〇東京鐵道支部、〇京都西陣支部、(〇)印賣店經營局内に購買箱を設置するもの五支部(外に準備中二支部)。
- 二、**信用事業を行ふ支部** 〇東工浪花茅場支部(六〇、〇〇)、〇東工下谷淺草支部(三五〇、〇〇)、〇千住支部(四〇〇、〇〇)、〇大森支部(一三六三、五七)、〇品川支部(一〇〇、〇〇)、〇魚戸支部、〇麻布支部(二二〇、〇〇)、〇貯金局支部、〇寺島支部(五〇〇、〇〇)。

本年九月以降に於て實施確定せるもの赤坂支部、東京鐵道支部、()内數字は信用事業資金
 ▲關係信用組合
 名稱、信用組合相互金融共濟會、所在地巢鴨町四ノ一、創立昭和六年二月二十二日、代表者柴田新六、關係組合選友同志會巢鴨支部
 右組合は巢鴨支部員に依つて昭和四年以來組織されて居たのであるが今年二月左記規約の如く改組した。